

県外派遣審判員報告書

作成日 2019年 6月 24日

大会名	第72回全九州高等学校バスケットボール競技大会	会場	沖縄県立武道館
期間	6月21日(金)~6月23日(日)	報告者	川井 剛(中体連)

スケジュール

期日	内容	場所
6月22日(土)	大会1日目	宮崎県体育館
6月23日(日)	大会2日目	宮崎県体育館

担当ゲーム

割り当て	期日	内容	CC	相手	相手
	6月22日	男子1回戦【佐賀北 vs 熊本工業】	CC	相手	山崎(福岡)/與那覇(沖縄)
	6月22日	男子2回戦【福岡第一 vs 長崎西】	U1	相手	原田(鹿児島)/潮平(沖縄)
	6月23日	男子決勝【福岡第一 vs 福大大濠】	U2	相手	宇地原(沖縄)/山口(長崎)

佐賀北 vs 熊本工業



黒のオフェンス時、NLに入る際に白のコーチと少しコミュニケーションをしていて、NLに入るのが遅れる。



その結果、自分のエリアでよりアクティブなマッチアップに対してレフェリーディフェンスがおろそかに。



白の選手の接触により、黒の選手がボールをとることができなかったが、コールをすることができなかった。

MTG (主任:松本氏)

全体的に笛が重い印象。オヴィアスなものに関しては鳴っているが、接触の度合いが大きくはないが決断(DECISIVE)してほしいものにもっと笛が鳴るとゲームが落ち着いてくる。

上の写真の例のようなケースを、あっさりと呼けるように。そのためには、自分のポジションにより早く着くこと、自分のエリアで捉えるべきプレイ(ディフェンス)をより長く見ることがまだまだ足りていないことが分かった。

福岡第一 vs 長崎西



赤のブレイク時、NL川井、NC原田氏。後ろから留学生が追いかけてきているシチュエーション。



テンディングかどうか！？というケース。プレカンでも確認していたことで、実際に起こった。

MTG (クルーMTG)

このケースを映像で見返したところ、「ボールが落ち始める/ボールがバックボードに触れる」というギリギリの瞬間だった。

もし自分がCだったら、決断できずに(せずに)逃げていたかもしれないと思った。

プレカンで話す内容を、どれだけ映像としてイメージしてゲームに臨むか、ゲーム中にどれだけ予測できるか、自分の引き出しになったケース。

福岡第一 vs 福大大濠



白のブレイク時、NT川井、NL山口氏。緑の選手が戻っているシチュエーション。



緑の選手が待ち構えているようにも見えるが、NTからはどちらかと言えばオフェンスを多めに見ていた。



レフェリーディフェンスが足りず、LGPにいなかった緑の選手の接触に笛を入れることができなかった。

MTG (主任:伊藤氏)

このケースでは、NTからの方がプレイがクリアに見える。どの時点からレフェリーディフェンスができていたか？という

問いに対して、オフェンスを見る割合が大きかったという反省になった。

CCの宇地原氏からは、吹けなかったことについて、メカやIOTを言い訳にする人がいるが、それではダメだという指摘を受けた。

上の写真の例のようなケースに限らず、宇地原氏がおっしゃったように、まだ言い訳をしている自分がいると感じる。コートに立つ上で、よりパーフェクトを目指すという部分で、まだまだ覚悟が足りないと感じた。

全体を通しての感想

今回、3ゲームを担当させていただきました。CCとして九州高校のコートに初めて立たせていただきましたが、力不足を感じながらも、自分の取り組んできた成果や、今後の課題が明確になったゲームでした。

3ゲームを通じて、決断力という面で、自分自身の弱さを実感しました。決断するために必要な要素はたくさんありますが、一つでも改善してIHを迎えたいです。

FTシューターの確認やファウルカウント、クロック管理については、これまで意識して取り組んできたので、県外の大舞台に立っても落とすことなくできました。日頃の実践をこれからも大事にし、処置ミスゼロを目指したいです。

留学生を擁するチームを吹くことについては、GWの福岡第一フレンドリーキャンプや、先日の西日本学生で経験したことが活かされたと思いました。まだまだ不慣れ感は否めませんが、このような場を求めることは、今後も続けていきたいです。

上記のようなことを県内でも共有し、来るIH・国体で鹿児島県の審判員が堂々とレフェリングできることを目指したいです。

最後に、このような機会を与えて下さった県審判委員会や、運営等さまざまな場面でお世話をして下さった沖縄県審判部の方々に感謝申し上げ、第72回全九州高等学校バスケットボール競技大会の報告といたします。